

春の歌

ろすゐ

磯の春

長閑なる春の海原ゆく舟の

かすみをもれて二つ三つ四つ

野の春

へたてなき友としゆけは春の日の

のとけき空に梅の香ぞする

庭の春

青柳の糸のみたれに結はれて

おほろにかゝる春の夜の月

新年梅

團 芽枝子

みしめ繩うでかす風のかをるかな

年九つ門の梅や咲くらむ

全

東 久米子

初日影にはふ軒端にはゑみて

としを迎ふる花ぞこの花

長野盲人學校生徒の俳句

(第二回の吟)

冬 雜

飯島八千溪

さらくと笹の音するあられ哉

亡き母のがたみの袖に時雨れけり

夕日深く照り込む谷の時雨哉

友達の笛の音牙ゆる寒さ哉

氷破る杖の響のさむさかな

しごくさ松に時雨るゝ小庭哉

太葱の味ますや初時雨

祖 山

同

同

同

同

清 澤

水

